

岡山県高等学校教育研究協議会
第6回会議 参考資料

- 1 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】
- 2 高校教育に関するアンケート 結果まとめ（「公立・私立高等学校の教育分担」に関連する問い）
- 3 市町村長の御意見を伺う会、学校視察、第1回・第4回会議における公立・私立高等学校の教育分担に関する主な御意見
- 4 令和8年度公立全日制高等学校配置図
- 5 令和8年度私立全日制高等学校配置図
- 6 令和8年度定時制・通信制高等学校配置図
- 7 学科配置（公立：R8年度募集定員）
- 8 学科配置（私立：R8年度募集定員）

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】

高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】

～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップが発生**
(事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるかわからない
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが個人の幸福につながり、ひいては、我が国の経済・社会の基盤を強いものとしていくことにつながる**



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- 学びの在り方の転換
(New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
 - ✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表
 - ✓ 高校教育と一貫した大学教育改革（主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等）

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- 最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化
(New Excellence)**
- ✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
→ **理数・文系の素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感**
 - ✓ 各高校の特色化・魅力化
→ 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成
→ **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 学ぶ機会・アクセスの確保
(New Education)**
- ✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
(地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に合わせた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進)
 - ✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
 - ✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の
高校教育改革に関する
グランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の
仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成
過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化
(アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)

(学校のイメージ)
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)
✓ ビジネス経験の必修化
✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
(文理の双方の素養を有する人材の育成等)

(学校のイメージ)
文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)
✓ 実社会につながる生きた授業の実践
✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保

(学校のイメージ)
学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)
✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

高校教育に関するアンケート 結果まとめ

(「公立・私立高等学校の教育分担」に関連する問い)

・調査期間 令和7年6月6日(金)～7月4日(金)

・調査対象 県内市町村立中学校長、県内市町村立中学校第2学年の生徒及びその保護者、県内公立高等学校長、
県内県立高等学校第1学年の生徒及びその保護者

Q1 高校を選ぶ（勧める）ときにどのような点を重視しますか。（3つまで選択）

	中学校長	中学校保護者	中学生	高等学校長	高校保護者	高校生
歴史と伝統	1.4%	1.2%	1.5%	-	5.6%	2.3%
学習内容	68.2%	36.1%	29.4%	-	35.6%	36.3%
学校行事	2.0%	4.0%	24.9%	-	7.5%	31.3%
進路（進学・就職）実績	58.8%	45.9%	30.8%	-	47.8%	43.4%
生徒の様子	35.1%	27.1%	13.1%	-	17.6%	16.2%
部活動	4.1%	20.1%	39.3%	-	22.0%	27.0%
施設・設備	4.1%	4.9%	9.9%	-	2.5%	5.7%
教員の指導力	10.8%	11.2%	5.5%	-	4.8%	3.4%
就学に要する費用	10.1%	20.6%	6.7%	-	10.1%	3.7%
通学の便・通学の時間	34.5%	55.9%	19.2%	-	44.4%	20.9%
制服	0.0%	2.9%	16.9%	-	6.2%	9.7%
校則	0.0%	1.5%	23.9%	-	1.5%	6.3%
合格の可能性	35.8%	40.7%	36.6%	-	30.6%	29.0%
中学校の先生、保護者、先輩、塾などからの勧め	1.4%	4.9%	5.2%	-	8.5%	11.7%
家族が卒業生あるいは在校生	0.7%	1.9%	3.7%	-	11.8%	8.9%
地域との交流が充実している	1.4%	0.5%	0.8%	-	2.2%	1.7%
大学や企業との連携が充実している	5.4%	3.8%	2.7%	-	3.3%	2.2%
特になし	0.0%	1.0%	4.6%	-	0.8%	3.9%
高校への進学は考えていない	-	-	0.7%	-	-	-
その他、無回答	4.7%	0.4%	0.3%	-	1.4%	0.7%

Q4 高校進学に当たって、公立高校と私立高校のどちらを希望しますか。

	中学校長	中学校保護者	中学生	高等学校長	高校保護者	高校生
公立高校	-	77.8%	66.3%	-	-	-
私立高校	-	3.8%	14.5%	-	-	-
高校への進学は考えていない	-	0.6%	1.8%	-	-	-
いずれともいえない	-	17.8%	17.4%	-	-	-

Q13 今後の県立高校にはどのような教育活動が求められると思いますか。（3つまで選択）

	中学校長	中学校保護者	中学生	高等学校長	高校保護者	高校生
ロボット、生成AI、プログラミングなど、最先端の科学技術についての学びが充実している	25.0%	27.4%	24.2%	29.5%	29.2%	28.9%
実際に仕事を体験するなど「働くこと」や「将来の仕事」について考える学びが充実している	46.6%	67.3%	44.7%	42.6%	63.9%	44.0%
難関大学進学に対応した学びが充実している	11.5%	14.0%	10.3%	18.0%	15.0%	18.5%
海外との交流があるなど、グローバル教育が充実している	20.3%	27.0%	15.0%	21.3%	29.5%	20.4%
地域の人、企業、大学等と連携した探究的な学びが充実している	62.8%	32.7%	7.8%	77.0%	41.0%	15.5%
芸術や文化などを通して感性や表現力を身につける学びが充実している	7.4%	10.7%	13.1%	6.6%	10.2%	11.5%
1人1台端末を活用した学びが充実している	6.1%	12.0%	22.7%	6.6%	10.5%	22.7%
中学校までの学習内容の学び直しができる	14.2%	8.0%	20.2%	6.6%	5.9%	18.5%
特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が充実している	48.6%	11.3%	4.2%	23.0%	10.0%	4.8%
自分の生活スタイルにあった時間帯で学ぶことができる	4.1%	6.8%	18.4%	4.9%	6.1%	15.2%
オンラインを活用して学ぶことができる	2.7%	8.6%	11.8%	4.9%	9.8%	11.2%
スポーツや健康に関する活動が充実している	2.7%	10.2%	25.6%	3.3%	7.3%	12.4%
学科の枠を越えた学びや教科横断的な学習が充実している	21.6%	16.5%	6.0%	36.1%	16.7%	8.5%
特になし	0.7%	3.4%	14.1%	1.6%	3.0%	9.9%
その他、無回答	2.0%	0.3%	0.2%	1.6%	0.3%	1.9%

市町村長の御意見を伺う会、学校視察、第1回・第4回会議における 公立・私立高等学校の教育分担に関する主な御意見

【市町村長の御意見を伺う会】

- ・ 県立高校も私立高校もバランスが取れており、うまく補完関係ができています。
- ・ 県立だけでなく、私立と市立もセットで俯瞰し、高校生を見守っていける環境が不可欠である。
- ・ 私立では何が学べ、どういう環境が良いのかという理由の分析と、それが県立高校でできない理由の検証を行う必要がある。
- ・ この3年間で中学校から私立高校への進学比率が高まり、生徒が市外へ流出している。
- ・ 人気が高い私立高校の良いところを参考にし、地域を盛り上げる素晴らしい高校をつくることが重要である。
- ・ 私立と公立は共存共栄し、職業科の比率が高い岡山県の特徴を反映させ、各地域の特色を生かした学校づくりを進めることが必要である。

【学校視察アンケート回答（抽出）】

- ・ 公立だからできることは、コストはかかるが小規模高校をできるだけ充実した環境で存続させていくことだと感じた。小規模のよさをもっと私たちが自覚する必要がある。
- ・ 岡山御津が取り組んでいる不登校や発達傾向のある生徒を少人数できめ細かに対応する教育活動について、私学ではなかなかこのレベルでは実施が難しいと感じた。発達傾向の強い子供が増え、さらに出生数が激化している現在、このような取組は社会インフラとして必須のものと感じた。
- ・ 今、私立高校への人気が高まっているが、どうして県立高校への興味が薄らいでいるのかを考えると、私立高校には、一つの学校内で、難関大学進学を目指すコースがあったり、探究的な活動を重視するコースがあったり、学び直しを行ったりするコースがある。また、途中で息苦しくなるとコース変更ができるなど、生徒の実態によって、臨機応変に対応できる。

【第1回、第4回会議】

- ・ 教育には多様性が必要で、歴史、伝統、独自性の高い教育理念を持った私立高校を健全に維持していくことで、県立と私立とが一緒になって岡山県教育最適化を進めていく必要がある。
- ・ 人口集積地域等を中心に私立の定員比率を高め、それによって得られる差額を中山間地域の公立学校の運営費に充ててはどうか。
- ・ 公立・私立を問わず、各校の教育条件に差が生じることのないように、教職員の適正配置やエアコンやトイレなどの施設設備の整備について協議を進めてはどうか。
- ・ 私立の方が経営効率が高いため、都市部の普通科高校の定員を減らすことで私立の割合を現状の30%から40%へ増やし、最終的には公私比率をなくしてもよい。具体的には県南の公立高校の普通科の募集定員を減らす一方、地域の学校は公立の学校に任せたい。
- ・ 中学校卒業者数の減少が見込まれる中、公立・私立ともに定員の在り方について検討し、公平な形での調整を図っていくことが求められる。

令和8年度公立全日制高等学校配置図

(中等教育学校を含む)



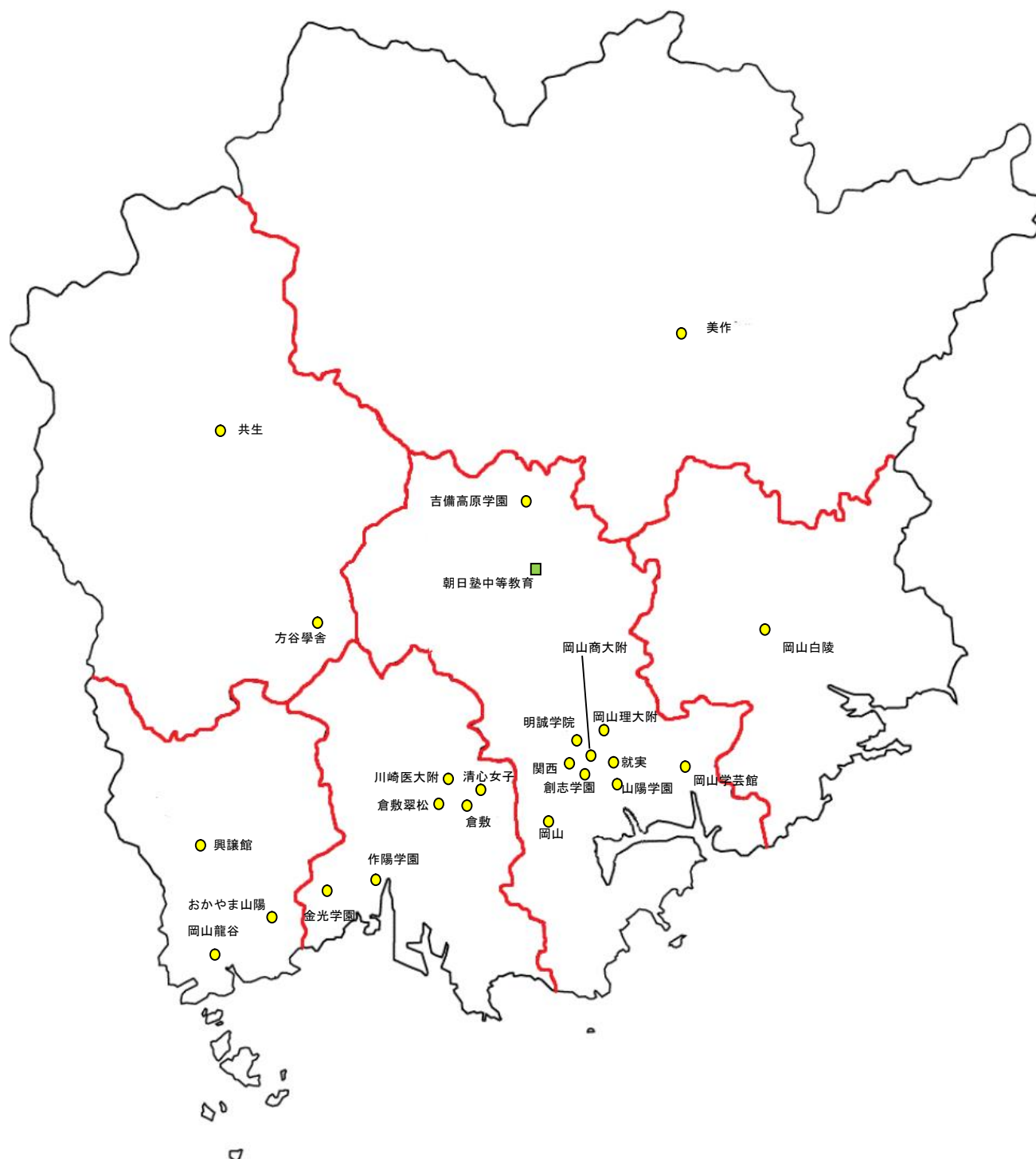
【公立全日制】

○53校

○令和8年3月の岡山県内中学校卒業者のうち、10,138人(60.6%)が進学

令和8年度私立全日制高等学校配置図

(中等教育学校を含む)

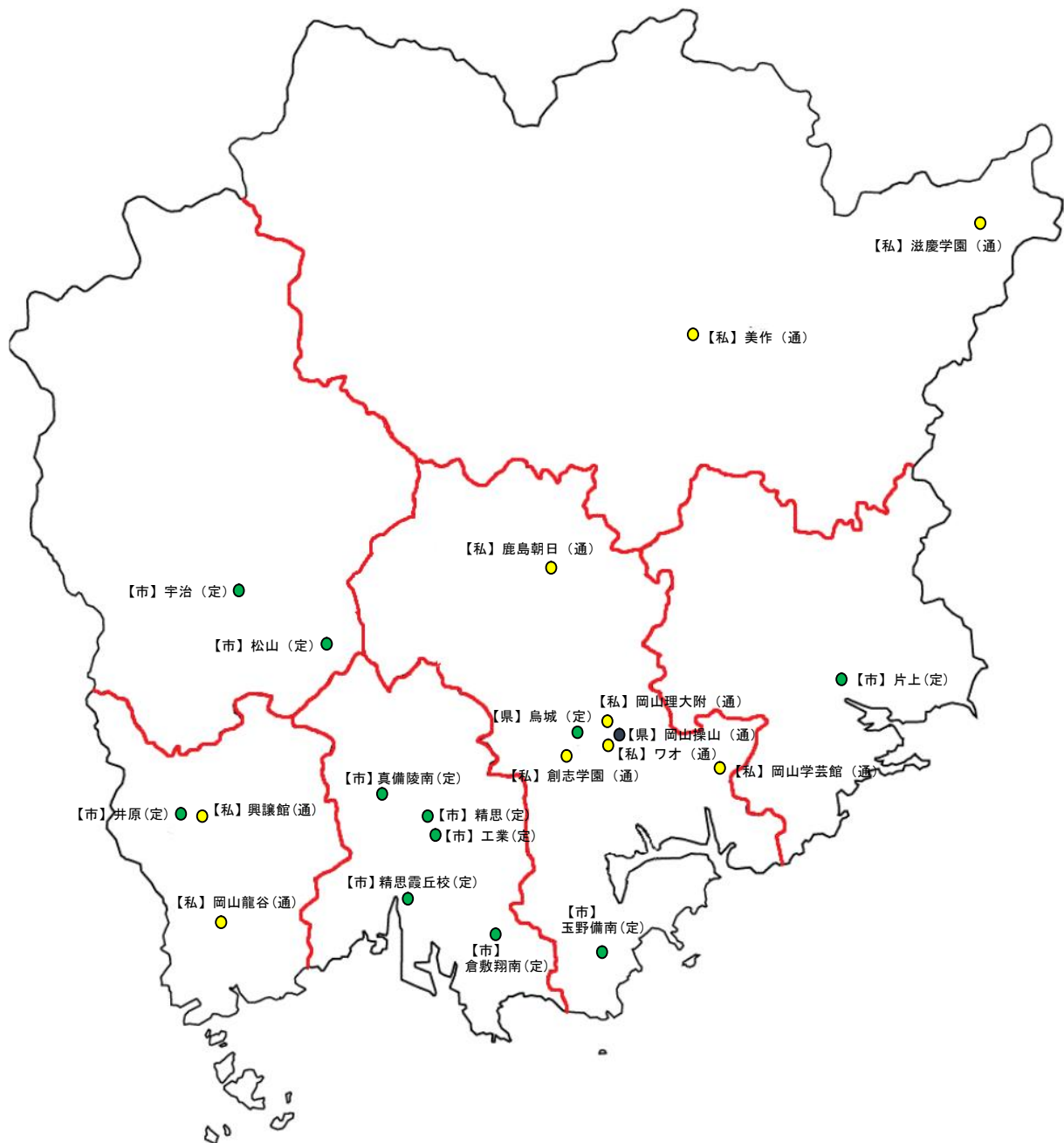


【私立全日制】

○24 校

○令和8年3月の岡山県内中学校卒業者のうち、4,347人(26.0%)が進学

令和8年度定時制・通信制高等学校配置図



【定時制】

○公立 11 校

○令和8年3月の岡山県内中学校卒業者のうち、410人（2.4%）が進学

【通信制】

○公立 1 校、私立 9 校

○令和8年3月の岡山県内中学校卒業者のうち、314人（1.9%）が進学

学科配置(公立:R8年度募集定員)

*全県学区は、所在する「普通科の学区」に記載

		美作学区	備北学区	西備学区	倉敷学区	岡山学区	東備学区	学区あり
普通科	普通科	津山 200		笠岡 160 井原 120	倉敷青陵 320 倉敷天城 200 倉敷南 320 倉敷古城池 280 玉島 200 総社 200	岡山朝日 320 岡山操山 280 岡山芳泉 320 岡山一宮 240 西大寺 160 玉野 160	瀬戸 160	
		津山東 120	高梁 120	矢掛 80	倉敷中央 160	岡山城東 320	邑久 40	全県学区
		勝山 120	新見 80	定:市)井原市立 80	総社南 240	玉野光南 120	和気閑谷 80	
		蒜山校地 40	定:市)松山 40		倉敷鷺羽 120	〈岡山大安寺中等〉 160	定:市)片上 40	
		林野 120	定:市)宇治 40		定:市)精思 80	定:鳥城 140		
					定:市)精思霞丘 60	通:岡山操山 500		
					定:市)真備陵南 80	定:市)玉野備南 40		
		津山 40			倉敷天城 40 玉島 40	岡山一宮 80		
						西大寺 【国際情報】 40		
						玉野光南 80		
専門学科	理数						邑久 【生活ビジネス】 80	
	国際体育						和気閑谷 【キャリア探求】 40	
	他							
	農業	真庭 40	新見 30			高松農業 200 興陽 120	瀬戸南 80	
	工業	津山工業 240	高梁城南 80 新見 35	笠岡工業 120	倉敷工業 320 水島工業 280 定:市)倉敷市工 120	岡山工業 320 東岡山工業 280 市)玉野商工 40		
	商業	津山商業 160 真庭 40		笠岡商業 120 矢掛 40	倉敷商業 320 玉島商業 160 倉敷鷺羽 40 定:市)精思霞丘 30	岡山東商業 320 岡山南 200 西大寺 80 市)玉野商工 80		
	家庭	津山東 40	高梁 40		倉敷中央 40 総社 40	岡山南 120 興陽 80	瀬戸南 40	
	看護	津山東 40 真庭 40			倉敷中央 40			
	情報福祉					玉野光南 40		
	他		高梁城南 【環境科学】 40	井原 【地域生活】 40	倉敷中央 40			
	総合学科	勝間田 120		鴨方 120	定:市)倉敷翔南 120	岡山御津 120 市)岡山後楽館 160	備前緑陽 120	

定員
合計 12,435

1,360

505

880

3,890

5,120

680

県立全日制 50校 10,625人

県立定時制高校 1校 140人

※「定」は定時制、「通」は通信制、「市)」は市立高校を示す。

市立全日制 2校 280人

市立定時制高校 10校 730人

県立中等教育学校 1校 160人

県立通信制高校 1校 500人

学科配置(私立:R8年度募集定員)

*所在する「公立高校の普通科の学区」別に記載

		美作学区	備北学区	西備学区	倉敷学区	岡山学区	東備学区
普通科	普通系学科	美作 270	方谷學舎 80	おかやま山陽 160	清心女子 160	関西 220	岡山白陵 160
		通:美作 300	共生 80	岡山龍谷 150	倉敷 260	岡山 160	
		通:滋慶学園 900		興譲館 90	倉敷翠松 180	山陽学園 250	
				通:岡山龍谷 240	川崎医大附属 35	就実 450	
				通:興譲館 240	作陽学園 240	明誠学院 370	
					金光学園 180	創志学園 170	
						理大附属 400	
						岡山学芸館 400	
						吉備高原学園 100	
						〈朝日塾中等〉 50	
						通:創志学園 5100	
						通:理大附属 600	
						通:岡山学芸館 240	
						通:鹿島朝日 8000	
						通:ワオ 1200	
専門学科	他					岡山学芸館【英語】 25	
	工業			おかやま山陽 80		関西 100	
	商業				倉敷 70	関西 100	
	家庭看護			おかやま山陽 85	倉敷翠松 60		
	情報				倉敷翠松 35	創志学園 40	
	他			岡山龍谷 50			
	総合学科					商大附属 230	

定員
合計

22,430 1,470 160 1,095 1,300 18,245 160

私立全日制 23校 5,560人

私立中等教育学校 1校 50人

※「通」は通信制を示す。

私立通信制 9校 16,820人